特集 あなたも議員になりませんか

第1回 議員のやりがいは何ですか
―町民の声を町政へつなぐ仕事―

議員という仕事に、どのようなイメージをお持ちでしょうか。
「議会で質問する人」・「町のことを決める人」というイメージはあっても、普段どのような活動をしているのか、どんなところにやりがいを感じているのかは、意外と知られていないかもしれません。
桑折町議会では、次の町議会議員選挙に向けて、より多くの方に議会や議員の仕事を知っていただくため、今回から「あなたも議員になりませんか。」と題した特集を掲載していきます。
第１回は、「各議員のやりがい」について紹介します。（議席番号順）



川村　滋道（かわむら　しげみち）

議員として活動する中で最も大きなやりがいを感じるのは、町民の皆様から寄せられた「小さな声」が、町の具体的な施策へとなった瞬間です。パートナーシップ制度の実現は嬉しいことでした。議会を身近に感じていただくため、これからも皆様の「声の受け皿」として現場第一で取り組んでまいります。皆様の出番をお待ちします。



齋藤　松夫（さいとう　まつお）

議員となって50年。早くに若い人にバトンタッチできなかったことを恥と考えるときもあります。議員になることは困難もありますが、人生に悔いなしと思えるほど、やりがいと生きがいを感じられるお仕事です。あなたも議員となって、いのち・暮らし、民主主義と平和を守るためおおいにがんばってください。期待しています。



半沢　正保（はんざわ　まさやす）

町民の声を政策につなげ、暮らしの改善を実現できることに大きな意義を感じています。例えば、暑さ対策を提案した小中学校体育館へスポットクーラー設置が実現しました。身近な課題を一つずつ政策として形にし、その成果を子どもたちや町民の安心につなげていくことこそ、議員として何より大切な使命・やりがいであります。



佐藤　武朗（さとう　たけろう）

あなたの声で、桑折町の未来をより一層良くしてみませんか？10年、20年先を見据えたまちづくりに参加することは、自分が動いた成果を、次の世代に確実に残すことが出来ます。民間での経験、子育てのリアルな悩み、農業や事業で得意分野の知見を政策につなげていきませんか。来年の選挙への挑戦を心からお待ちします。



斉藤　謙（さいとう　けん）

私は、町の財政状況を知るために議員になりました。町へ町民の声を届ける。民主制度における町民を主体にした取組をおこなうことができる。全国の研修会に出席するたびに他自治体の議員・職員等と交流できる。町民の税金を町民の為に使用するお金のチェックをする。町民の疑問点は何でも、町の施設等の疑問点を聴ける。



半澤　高（はんざわ　たかし）

同じ桑折町議会議員のほかに他市町の議会議員との交流があり、それぞれの市や町での課題点などについてお互いに話する機会が数多くあった。議員ならではの多くの友人を得られることが一番だと思う。

Q 議員になるために特別な資格は必要ですか。

A 特別な資格は必要ありません。年齢：満25歳以上であること、国籍：日本国民であること、選挙権：その町議会議員の選挙権を持っていること（原則として、その町の選挙人名簿に登録されていることなど）、住所要件：一般的に、投票日の３ヶ月以上前から引き続きその自治体（町）の区域内に住所を有していることなど、公職選挙法に定められた要件を満たせば立候補できます。

Q 議員は毎日役場にいるのですか。

A 毎日役場に勤務する仕事ではありません。本会議や委員会への出席のほか、調査研究、町民相談、地域活動などを行っています。

Q 仕事をしながら議員になることはできますか。

A 議員活動と仕事を両立している方もいます。議会が最優先となりますが、議会の日程や活動時間との調整ができることもあります。



羽根田ひとみ（はねだ）

町施設の利用や行事の参加でいろいろな方々からご意見を頂き、町に対する提案が執行された時は嬉しく思います。歴史や文化を学び直し、町内を歩き、自転車での散策は新たな発見があり、町に対する愛情が深まりました。町外へ出かけての情報収集も新鮮です。この町の現在と未来を考え活動できる日々は楽しく充実しています。



石幡　政子（いしはた　まさこ）

議会は町の未来をつくる場です。町民誰もが安全安心に暮らせる町づくりを目指し、執行部との両輪という意識を常に持ちながらもしっかりと検証し、若い世代に継承していく事を使命として議員活動ができる事をやりがいと感じています。



岡本　貴士（おかもと　たかし）

議員活動には、行政や地域の課題など、日々新しく学ぶことが多く、自分自身の知識や視野が広がる魅力があります。また、まちづくりに関わる中で、その責任の重さと同時に、地域を支えてきた先人の努力を実感します。学びながら地域の未来を考え、行動できることこそ、議員としての大きなやりがいです。



川名　靜子（かわな　しずこ）

最終決定の場に参画する事は議員としての責任を伴うが是々非々で採決に望む事もこの世界ならではの緊張した雰囲気で格別なものです。台所感覚の発想でいいんです役に立ちますよ。私の出馬に先輩議員から「新人なんて何もできないぞ！」と言われ「ならやってやる」と挑戦したドキドキ、ワクワク感を共に感じてみませんか？



原　賢志（はら　けんし）

私は、44歳の時に議員に立候補し当選しました。それまで、政治に関わった事もなく、PTA や消防団、祭礼の若連などで多くの方々と活動し楽しく過ごしていました。仲間との会話の中から、自分の住む町、住み続ける町がこんな街になってほしいという思いで議員活動を行っています。一緒にまちづくりをしませんか。



町民の声が、町を変える

議員一人だけで町を変えることはできません。
しかし、町民の皆さんから寄せられた声を議会で取り上げ、議員同士で議論し、行政へ政策を提案することで、町の仕組みや事業が変わることがあります。だからこそ議会には、さまざまな世代、職業、経験を持つ人が必要です。若い世代、子育て世代、会社員、女性、農業や商工業に携わる方など、多様な立場の人が議会に参加することで、これまで気付かなかった課題や新しい発想が町政に反映されます。

次回予告

第２回「議員はどんな仕事をしているのですか」

次回は、本会議や委員会、一般質問、町民相談など、議員が実際にどのような活動をしているのかを紹介します。